

## 竹田市経済活性化促進協議会

### 雇用拡大セミナー報告書

1. セミナー : 雇用拡大メニュー・地域福祉・介護分野 公開セミナー
2. テーマ : 『超高齢社会への挑戦！～住民が主役の新しいカタチとは～』
3. 日時 : 平成 24 年 9 月 21 日 (金) 13:30～16:30
4. 場所 : 竹田市久住公民館 機能回復訓練室
5. 講師 : 住民型有償サービスグループ『沖代どんぐりサービス』代表兼マネージャー、地域ボランティア『沖代すずめ』代表 吉田 日出子氏
6. パネリスト : 小野 朝男氏、水野 匡也氏 (久住支所長)、大塚さとみ氏 (久住荘)
7. 参加者 : 108 名(別紙のとおり)
8. 事務局 : 児玉誠三、渡部哲哉、古澤守高、本田翔太郎、渡邊潤子、高木佳奈枝、工藤美津子、羽田野麗子
9. 内容 : 別紙のとおり

#### 1. 開会あいさつ

竹田市長・首藤勝次氏より開会あいさつ。

地域と行政が一つの方向に向かい共同することが重要であると考え、第一弾として竹田市ならではの方策にて『農村商社わかば』を立ち上げる。生産者からの直販という形を取り、道の駅や加工所を作り現場で生産力を上げる方法を作り上げる。

現在では多くの農家が参入し、昨年の実績では 80 億円を超える。竹田市経済活性化の取組でも多くの加工品が誕生した。

本年 7 月には『総合まちづくりセンター』を立ち上げる。

町の中の小さな課題に行政が事細かに関わるのが困難であるため、民間の持っている力を発揮させるための仕組みをサポートする機能を持たせたものが『総合まちづくりセンター』である。

この構想の象徴となるのが竹田市経済活性化促進協議会であり、環境、健康、福祉をテーマにし、“竹田市にしかできない竹田ならではの”の政策を生み出していきたいと考え、特に深刻な課題でもある高齢社会にどう対応していくのか社会福祉の充実のためにどのような戦略を考えたらいいのかを考えている。

本日オープンした『暮らしのサポートセンター久住・りんどう』はその象徴である。近い将来、同じような機能を持ったサポートセンターが各地区にもできなければならないと考えている。

行政と民間が力を合わせる作業が今後も必要になると考えている。

## 2. 講師紹介

中津市沖代地区、住民型有償サービスグループ『沖代どんぐりサービス』、地域ボランティア『沖代すずめ』の代表である吉田日出子氏を紹介する。

## 3. 講義内容

### 1. 基調講演 『地域で共に生きること』

#### I. 中津市沖代地区の現状と有償サービスの立ち上げ

中津市沖代校区の概要、地域の現状と『沖代すずめ』、住民参加型有償サービス『沖代どんぐりサービス』立ち上げの経緯を説明(詳細は別添資料 1 4～5 頁参照)。中津市は 15 の地区から成り、人口は約 8,600 人。

住民が主体の活動が主となり、“住民による住民のための活動”に取り組む。

沖代地区は新興住宅地のため、昔ながらの住民同士の繋がりが弱い。公民館を利用し、“公民館に行けば誰かに会える場づくり”として『すずめサロン』を開始。

その後もミニデイサービス、住民参加型有償サービス『沖代どんぐりサービス』、『すずめのお宿』などのサービスを開始。

自分達でバザーを行い、その資金で拠点となる空き家を借り“寄り合い所”となる『すずめの家』の活動を展開する。

#### II. 沖代すずめの活動、沖代どんぐりサービス活動について

##### 1) 沖代すずめ

沖代すずめでは、約 60 人のスタッフが当番制（1 日 4～5 人体制）で食事の準備などの活動を行っている。1 日の利用者は 25～30 名。利用時間は午前 10 時～15 時まで。利用者の中から当番制で世話役を担ってもらい自由に過ごして貰う。

昼食代 200 円、コーヒー代 100 円のみで利用可能。

週に 1 度、介護施設からのデイサービスの受け入れや、小学生との交流なども定期的に行なっている。

##### 2) 沖代どんぐりサービス

『沖代どんぐりサービス』は、介護保険サービスだけでは埋められない部分を専門の職員と共同し高齢者の自宅での生活を支えるためのサービスを提供。利用者は介護保険サービスと『どんぐりサービス』の両方を利用している。

30 分毎の料金を設定し、掃除・洗濯・調理・買い物などのサービスを提供。

(詳細は別添資料 1 6～7 頁参照)

#### III. 中津市の住民型有償サービスの経緯について (詳細は別添資料 1 7～9 頁参照)。

#### IV. まとめ

高齢者にとって、話を聞いてくれる相手が居ることで安心感が生まれ、信頼関係を築くことが出来る。

『すずめの家』での活動を始める時、「高齢者が一人で勝手に家から出て交通事故にあつたらどうするのか？」と周囲から言われたが（『すずめの家』の前には交通量の多い道路が走っている）、マイナス面ばかり考えていては何も出来ない。そのような事態を回避するためには信頼関係以外にはないと考えている。

『すずめの家』や竹田市にもできた『りんどう』などの気軽に出かけられる場があることで、高齢者は元気になり、小さな悩み事などを相談することもできるようになる。サポートセンターが出来ることにより、悩みを抱えた人が相談しやすくなるのではないかと考える。

地域のことは、住民が一番よく知っている。小さな地域での人と人との関わりではわずらわしいことも出てくるが、人間関係を避けていては何も出来ない。

そこには“自分達の住む地域をこんな風にしたい”という願いとマンパワーが必要になると説明し講義を終了する。

## 2. これから音頭

渡邊潤子氏より、『すずめの家』の活動は自分たちの見本である。

昨年視察で中津市を訪れた際、『すずめの家』でお活動に感銘を受けた。そこで利用者が踊っていた「これから音頭」を参加者と共に踊りたいと説明する。

渡邊潤子氏の指導の下、参加者全員で「これから音頭」を踊る。

## 3. 円卓会議～100人討論会～

コーディネータである中津市社会福祉協議会の吉田瑞穂氏より自己紹介をする。

ここからは聞き役ではなく、いままで聞いたこと、感じたことを意見として出して欲しい。現在住んでいる地域でこれから“寄り合い所”を始めようか、または作ろうと計画している地域もあるかと思うが、これから人と人との信頼関係ができ、形や仕組みに出来るようにするためにはどうしたいのか、何が必要なのか、自分たちに何が出来るのかということを考えていきたい。

参加者全員で作りに出していくところまで導き出して行きたいと説明する。

## 4. アンケート①基調講演

- 1) 「すずめの家」の経緯、活動の様子を聞いて
- 2) 「住民型有償サービス」の経緯、活動の様子を聞いて
- 3) 「基調講演」全般をとおして、感想、意見

(アンケートの詳細は別添資料 2 のとおり)

## 5. アンケート②円卓会議

- 1) 竹田市の地域福祉の現状と課題、地域に必要とされているもの
- 2) ここに住む私たちだからこそできることとは？

3) 「円卓会議」及び公開セミナー全般をとおしての感想、意見  
(アンケートの詳細は別添資料3のとおり)

## 6. 閉会

竹田市社会福祉協議会、猪野一男会長より、閉会の挨拶を頂戴し終了。

### ●公開セミナーの様子



基調講演の様子



これから音頭



円卓会議の様子



会場の様子